

環境への負荷が少ない商品・サービスの優先的購入を進める地域ネットワーク

GPN Green Purchasing Network

CONTENTS

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ■2008年度通常総会・講演会 1~3 | ■エコに学べ! (株)コクヨ工業滋賀 7 |
| ■第5期役員紹介 4~5 | ■リレートーク ロマン楽器(株) 8 |
| ■エコ情報室 食のグリーン購入 6 | ■会員からのお知らせコーナー 8 |

2008年度 通常総会

開催日：2008年5月28日(水) 会場：滋賀県庁新館 大会議室



今年は180名以上にご参加いただき、総会における審議事項については滞りなく出席会員の皆様の承認を得ることができました。続いての講演会では、「不都合な真実」の翻訳を手掛けられ、福田総理の「地球温暖化問題に関する懇談会」メンバーでもある枝廣淳子さんにお話しいただきました。

基調講演

「不都合な真実を越えて ~温暖化は史上最大のチャンス~」

講師：環境ジャーナリスト 枝廣 淳子 氏

《講演要旨》

地球温暖化の現状や見通しを語るとき、問題だと思うとのひとつは、多くの人に原因や対策が知られているにも関わらずなかなか行動に結びついていかない、ということです。

温暖化に伴って、飢餓、マラリア、水不足など様々なリスクが生じますが、こういったリスクの急激な増大を招く分岐点が、気温が2℃上昇した時であると言われています。多くの人は、「温暖化」という言葉に、時間の経過とともに「穏やかに直線的に気温が上がっていく」というイメージを抱いていますが、温暖化による気温の上昇は、そうではなく、様々な原因によって悪循環が引き起こされ、その悪循環が加速度的な気温の上昇を招く恐れがあるのです。直線的な気温の上昇であれば様子を見ることもできますが、加速度的に悪化するとなれば、何とかしようとした時には既に手遅れであり、科学者の中には既にそのような状態に突入しているという人もいます。

枝廣 淳子(えだひろ じゅんこ)氏 プロフィール

東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。環境ジャーナリストとして2つの会社を経営する傍ら、執筆・講演・翻訳・環境NGO運営など環境を軸にマルチキャリアを展開中。有限会社イズ代表、NGOジャパン・フォー・ステナビリティ(JFS)共同代表。主な著書に『地球のためにわたしにできること』『ダイエットCO₂』、訳書に『不都合な真実』『成長の限界 人類の選択』ほか多数。



私達が毎日どのような暮らしを送るのか、企業がどういう経済活動を営み、どういう社会を作っていくのか。今の生活が100年後の人たちが生きる世界を決定付けるということを考えれば、私達は非常に責任の重い時代に生きていることになります。

低炭素社会への転換のための大切なポイントは、目的と手段を分けて考えることです。また、産業・民生・運輸それぞれの部門でどれだけ二酸化炭素の排出量を減らすのか分担を決め、それぞれの部門に合った効果的な削減制度を設計することが重要です。温暖化問題を語るとき、よく、

ライフスタイルの転換、技術の進歩、または次世代への教育等によって何とかなるのではとの声を耳にしますが、多少の時間稼ぎはできたとしても、どれも万能ではありません。将来を見据えながら、いま必要なことをやっていく。それぞれが異なる役割を、連携して果たしていく必要があると考えています。

具体的に重要なことは、まず「ビジョンを描くこと」、次に「全体像を把握すること」、そして「行動すること」、それらを「伝えること・広げること」だと考えます。

ビジョンの書き方においては、2つの方法があり、従来日本では、多くが現状に立脚した中で何ができるかを積み上げていく「フォアキャスティング」という方法がとられてきました。しかし、これでは現状が変化したときに最終目標が変化しやすく、目標がはっきりしないことが、しばしばその達成を妨げる原因となります。これに対して、現状や問題は脇に置き、あるべき姿、理想像を先に描くという「バックキャスティング」という手法があります。世界的に見れば、各国のCO₂削減目標はフランスでは75%減、イギリスでは60%を80%に上げる努力をしていますし、アメリカでは80%減という数字を出しています。それができるかどうかではなく、必要だからやっていこうという考え方方が「バックキャスティング」なのです。

次に、「全体像を把握すること」です。私達は、問題があると自分が見える範囲で原因と解決策を考えますが、單に目の前の出来事だけではなく、パターンや構造を見て全体像を把握しようとすることが大切です。今話題のバイオ燃料は世界的なブームになっていますが、このことが食糧の高騰から飢餓を招き、また一方で熱帯雨林の破壊から温暖化を招いている事実があるわけです。人は誰も温暖化を進めたいと思っていないし、それぞれが出来ることを一生懸命やっているにもかかわらず日本のCO₂排出量は増え続けています。これは、私たちの思いや未来への責任感が足り



ないからではなくて、日本の社会や経済が二酸化炭素をどんどん出す構造になってしまっているからです。その構造を変えない限り、人為を責めても解決しません。

次に「行動すること」です。人の意識に頼っているだけでは行動は変わりません。人の行動を変えるようなしくみを作っていくのが自治体の責任であり、地域や企業ができる事だと思います。マイバッグ持参、レジ袋辞退を呼びかけても、意識啓発だけではマイバッグ持参率は10%でした。ところが、レジ袋を有料化したとたん持参率が80~90%になったというのも一つの例だと思います。炭素情報を「見える化」し、責任が取れる形の選択肢を作っていく。このあたりがグリーン購入の次のステージかなと考えています。意識啓発も大事ですが、人が行動を変えたくなる仕組みを取り入れることが非常に重要です。

最後に、「伝えること・広げること」です。新しい考え方や製品、サービス等を広げていくにはどうすべきかを考えるとき、「イノベーション普及理論」というものがあります。考え方人、伝える人、まずやってみる人の段階を経て社会の主流派となることを説いたものですが、人にはそれぞれ役割があり、伝えるため、広げるためには、今はどの段階で、どのような人たちに伝え広げていくべきか、ターゲットを絞り込み、効果的に訴えていくことが必要になります。いきなり社会の主流派を動かすことはできませんし、また、反対のための反対をするような人を相手にする必要もないと思います。

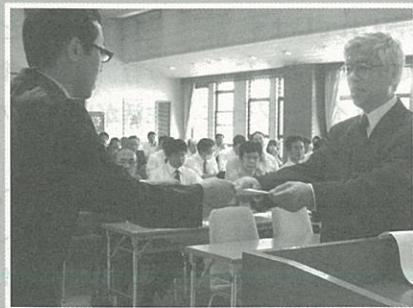
温暖化問題は、このままでいると大変な事態になりますが、これだけ「何とかしなければ」という社会状況があれば、「ピンチはチャンス」の言葉通り、大きく動かすことができると思います。そういった意味では、私たちは非常にやりがいのある、生きがいのある時代に生きているのではないかと思っています。

(筆：ニュースレター担当幹事 草津市役所 仲川)

総会FLASH



通常総会では毎年、新規入会会員の皆さんをご紹介しています。今年も、新メンバーからの熱いメッセージをいただきました。



新規入会会員を紹介して下さった会員団体の皆様に、土屋代表幹事から感謝状が贈呈されました。

フロアトーク 「地域から考える地球環境～今、私たちがすべきこと、私たちにできること～」

●パネリスト 環境ジャーナリスト 枝廣淳子氏
滋賀県知事 嘉田由紀子氏
●コーディネーター 滋賀GPN代表幹事 土屋正春

低炭素社会実現に向けて、企業や行政の立場でできること、すべきことについてお三方に語り合っていただきました。その一部をご紹介します。



■土屋代表：かつて滋賀県が取り組んだ「せっけん運動」では、意識と行動が見事に表裏一体となっていました。それに対して、今の「分かっているけど、行動が伴わない」実態について、どのようにお考えですか？

■嘉田知事：枝廣さんが話された「ビジョンを描く」「全体像を把握する」「行動する」「伝える、広げる」ということを、かつての「せっけん運動」ではやってきました。ビジョンを描いて全体を把握するのは行政の仕事です。しかし行動し、伝え、広げるのは生活者なのです。行政の包括的な知識とビジョンが生活者から広がっていった「せっけん運動」は、環境問題のモデルとして素晴らしいと思います。しかし、いま私達が直面している温暖化問題では、「共感する構造」が描きにくくなっていると思うのです。2年前、暖冬で「琵琶湖の深呼吸」がストップしたことがあります。太平洋や大西洋が大きな温度変化をする前に、予兆は琵琶湖に現れます。琵琶湖は「地球環境の小さな窓」と言えます。その琵琶湖の底を「見える化」していくことが、私が知事としてやっていきたいことのひとつです。

■枝廣先生：「琵琶湖の深呼吸」というのはいい言葉ですね。直接見えなくとも思いを馳せること、共

感する力についていくことは、温暖化問題を理解するために大切なことです。二酸化炭素は見えませんし、減らしても成果が分かりづらいので、行政や企業では結果を「見える化」することによって次の行動につなげていくことが必要ではないでしょうか。

■土屋代表：私たちが次のステージに進むためには、「もっと大きいテレビを買おう」というような分かりやすい豊かさの指標ではなく、コミュニケーションや時間の使い方が豊かかどうかという、新しい指標が必要ですね。その場合、企業人としてどのような方向転換をしたらよいのか、ヒントをいただけないでしょうか。

■枝廣先生：幸せにつながる経済かそうでないか、その峻別をはっきりさせ、幸せを作り出すような経済にシフトしていく必要があります。大切なのは、企業に勤めていてもいなくても、私たち一人一人が自分の手綱を自分で握ることです。「会社がこう言うから」「お上がこう言うから」ではなく、それぞれの立場で何ができるのかを、自分の頭で考えて自分で選んで決めていくこと。それが環境問題や社会問題のいちばん根本的な解決策に直結していると思います。

(筆：ニュースレター担当幹事瀬田アーバンホテル 片岡)

★参加者からのメッセージ

(株)清水合金製作所 総務人事課 菅沼晃宏さん

出席して驚いたのは、出席者数の多さでした。改めて会員企業・団体の環境に対する意識の高さを感じました。枝廣氏の基調講演では、何回見てもゾッとする温暖化シミュレーションの映像。10年後、20年後の地球の姿を決めるのは、今生きている私達のだと痛感させられる気付きの機会となりました。フロアトークも大変興味深い内容でした。今後は講演を得たものをいかに上手く伝えるか、そして行動という形にし効果を生み出していきたいと思います。

愛荘町役場 環境対策課長 西川作男さん

今年度から環境対策課に異動し、温暖化問題については自分なりに学習してきましたが、講演会に参加して鮮烈な驚きと感動を覚えました。特に温暖化シミュレーションの映像を交えた講師の熱のこもったお話を、驚嘆の連続でした。私たちは、後世にかけがえのない「宇宙船地球号」を無傷でお渡しする事が大きな役目だと思います。直にできることでできないことがあります。できることは実行する、またライフスタイルをもう一度見直す、そういう時期が来ているような気がしました。

第5期 役員紹介

任期
2008年6月～2010年5月

2008年度通常総会にて、滋賀グリーン購入ネットワークの第5期役員が決定いたしました。役員団体の担当者の皆さまからのメッセージをご紹介します。

代表幹事

滋賀県立大学 副学長
土屋正春

地球環境問題をめぐるテレビ番組と新聞記事は洪水のようです。CO₂排出量削減目標も30%などと言われ、誰がそれを実行できるのでしょうか。が、需要が供給を正当化する限り、主役は私たち市民以外にはいないのです。モノではない理想を創りましょう。

アドバイザー

同志社大学 教授
黒島 孝

「環境・イノベーション・雇用」これは昨年のハイリゲンダム・サミットの事前に開催されたEU環境大臣非公式会合でのテーマです。今や環境大臣が環境問題を経済問題や政治問題として議論する時代です。環境と経済さらに社会正義との同軸化こそ、21世紀の企業経営の方向です。この軸がぶれないように、滋賀GPNはこの理念を高くかざしましょう。

幹事

旭化成住工(株) 本社滋賀工場

私たちの活動が社会や会員の皆様に少しでもお役に立つよう微力ながら尽力して参りますので、滋賀GPN会員が一緒に活動に取り組みましょう。

総務部 ISO・リスク・コンプライアンス担当主査
松宮秀典

NECセミコンダクターズ関西(株)

滋賀GPN会員の皆様と交流させていただき、各種イベントに楽しく参加しています。10周年を目指して頑張りましょう。

環境管理部主任
三好君雄

近江鉄道(株)

今日は少し面倒臭いが電車・バスを利用して出かけてみる。環境にやさしい公共交通機関の利用もグリーン購入も、最初の一歩を踏み出せば簡単なことです。

管理部課長代理
梅原 猛

関西電力(株) 滋賀支店

エネルギー会社として、滋賀GPNの活動を通じて環境問題に積極的に取り組んでいきたいと思います。

総務部広報グループリーダー
辻野功二

小林事務機(株)

「ありがとう」や「三方よし」を会社の根幹として、「感謝」と「リューション」でお客様へのお役立ち、お困り事解決を目指しております。幹事事業者として更なる環境配慮型の製品・サービス情報を提供してまいります。

営業推進グループ室長
和田 隆

(株)沢田商店

粗大ゴミNo.1の寝具やマットレス、これをどう減らすかが寝具のグリーン購入へのスタートでした。実効を上げる「しくみづくり」に取り組むことが大切ですね。

代表取締役
沢田昌宏

(株)滋賀銀行

「資源は有限、知恵は無限」グリーン購入と「環境金融」の輪を広げ、地域金融機関として持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

総合企画部CSR室長
西堀 武

昭和电工(株) 彦根事業所

前任者から引継いで早2年。グリーン購入推進は地道な活動であるが故、重要な活動だと思います。グリーン購入をはじめ各種環境保全活動に取り組んでいます。

環境安全・品質チーム課長
吉本栄治

(株)新江州

「Mもったいない・Oおかげさま・Hほどほどに」をキーワードに、環境づくりと人間形成に取り組み、滋賀グリーン購入ネットワークに貢献していきます。

取締役業務支援本部長
八田正義

(株)瀬田アーバンホテル

役員は2期目となります。多くの行事に翻弄されがちですが、GPNが進むべき方向性を見失うことのないようにしてゆきたいと思っています。

専務取締役
片岡剛光

たねやグループ

昨年の世相を表す一文字は「偽」でした。現代社会に求められるグリーン購入の意義を理解し、その促進、啓発に取り組んでいきたいと思います。

環境経営室 主任
木田幸司

長浜キヤノン(株)

長浜キヤノンでは、創業時からの「共生の理念」に基づき、社内・社外を含めた環境保全活動に従業員一丸となって取り組んでまいります。

管理部調達課長
西嶋利明

(株)びわこ銀行

「地元のお役に立つ“じぎん”を目指す」をモットーに、環境関連金融商品（融資や預金）の提供をはじめ、自らの環境負荷軽減やグリーン購入を積極的に推進いたします。

環境事業部長
中山和郎

琵琶湖ナショナルファミリー会

滋賀地区の松下グループが、地域の発展とグループの繁栄を図るために、清掃やボランティア活動、事業場や地域の環境保全活動等に共に取り組んでいます。

(株)松下流通研修所
人事総務チーム 総務統括
面高文三

(株)平和堂

平和堂はお買い物袋持参運動をはじめ、地域の皆さんと一緒に環境保全活動を積極的に進めてまいります。

環境推進室
西塚哲夫

(社)滋賀県建設業協会

私たち社団法人滋賀県建設業協会は、グリーン購入ネットワークの活動に共感し、業界に浸透させるべく様々な活動に参加したいと考えます。

環境対策委員長
谷口 浩

滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル

私達は、学生の立場からグリーン購入を広める活動をしている滋賀県立大学の学生サークルです。滋賀GPNでは「突撃レポート」を担当しています。

三田恵理子

滋賀県

滋賀県では、グリーン購入やグリーン入札を全国に先駆けて取り組んでいます。これからも滋賀GPNとともに活動を進めています。

会計管理局管理課 主幹
川島治彦

東近江市

本年4月から担当となりました。役員や会員の皆さんの交流を深め、グリーン購入について理解し、推進につなげたいと思います。

生活環境課 主査
青木良明

会計幹事

(財)滋賀県産業支援プラザ

環境と経済。持続可能社会はこのトレードオフの関係を“止揚”できるかが鍵。川下から発想、行動する滋賀GPNの取り組みを一層強めましょう。

理事
中嶋良立

(財)淡海環境保全財団

地域の行政機関をはじめ企業や消費者の皆様と連携してグリーン購入を推進し、琵琶湖の環境保全に繋げたいと考えます。

事務局長
永井 茂

滋賀県商工会連合会

県内商工業者の振興や商工会の健全な発展を図るために、37商工会を通じて専門的・広域的な指導を行っています。企業経営と環境問題は切り離せませんので、年々関心が高まっています。

経営支援課 課長
杉山 清

滋賀県地域女性団体連合会

「ちふれん」の今年の活動目標は、環境問題に重点をおき、「マイはし・マイバック・マイびわ湖!!」です。

副会長
中村初子

生活協同組合コープしが

フードマージャー、食糧自給率、食の安全安心、食育などは、毎日のように目にする言葉となりました。私達はもう一人人が「知っているけど…知らない」ではなく「つながる所に来ています。皆さんと共に学習しながら実践していきたいと思います。

CSR推進室 経営品質マネージャー
三田村弦郎

立命館大学Reco.Lab

「歌うくらいハッピーな未来のために今考えよう」この合言葉のもとで、エコが当たり前の社会を目指しています。滋賀GPNの活動を普及させたいです。

加藤 拓

滋賀県

「大津市役所グリーン購入基本方針」を策定し、グリーン購入を推進しています。滋賀GPNと協働し、今後も普及・啓発に努めていきたいと思います。

環境保全課 主事
田中美帆

彦根市

環境に配慮した商品を購入するグリーン購入は、CO₂削減に有効な手段です。皆さんと一緒にグリーン購入を通じた環境への貢献に取り組んでいきます。

生活環境課 主任
笛原秀隆

草津市

グリーン購入の普及により、環境への負荷の少ないライフスタイルが実現できるよう、草津市においてもその定着を図っていきたいと思います。

環境課 専門員
仲川喜之

野洲市

グリーン購入を通じて、「ひとやさしく、地球にやさしい」取り組みを積極的に進めていきたいと考えています。

総務課 課長補佐
寺田実好

余呉町

会員の皆さんの活動・取り組みにはまだ及びませんが、環境にやさしい役場を目指してグリーン購入を推進していきたいと思います。

総務課会計室 主査
酒井みゆき

事務局

このメンバーで、お立ち寄り下さい。事務局へもお気軽に。

前列左より重野事務局長、辻、仁科、杉浦

エコ情報室

食糧自給率向上に! 地球環境保全に! 新たなCSR活動「食のグリーン購入」

開催報告 食のグリーン購入シンポジウム～『地産地消』で 職場も地域も顔晴れる～
開催日:2008年6月30日(月) 会場:草津市立まちづくりセンター

私たちの生存と健康の支えとなる「食」。日々の生活で最も購入頻度が多いのも「食材」ではないでしょうか。その食材は生産者が多くの労力をかけて栽培・生産し、様々な輸送手段を使って私たちの手元に届けられています。その結果、必要以上のCO₂を排出してしまっているのです。できるだけ近くで栽培・生産された農産物を食べることは環境負荷が少ない食材を選ぶこととなり、地球温暖化防止の身近な一歩となるだけでなく、食糧自給率の向上にもつながります。

この日は生産者、小売・流通業者、消費者(企業・個人)など109名が参加して、皆で「持続可能な食」について考えました。神戸大学名誉教授の保田茂先生の「地産地消はコミュニティ復活の鍵」と題した基調講演と、びわ湖ベジタブルロードの野田理事長(生産者)、パールライス滋賀の藤澤課長(流通業者)、NTT滋賀支店食堂の土谷マネージャー(食の提供者)のそれぞれの立場からの事例提供を含むフロアトークを行い、会場は熱気に包まれました。



事業所食堂にも
地元農産物を!

「地産地消フェア」 参加事業所の募集について 10月実施

- 実施期間:2008年10月1日～31日のうち、1日でもOK!
- 実施内容:事業所食堂における県内産食材利用メニューの提供

温暖化防止に取り組む上で、また従業員の健康(福利厚生)を考える上で、事業所内にて提供する昼食に着目してみませんか。従業員の方々が利用される食堂で「地元の食材」を使ったメニューを提供することは、CO₂削減や安全・安心をふんだんにした新たな「CSR活動」として位置づけることができます。

滋賀グリーン購入ネットワークでは、10月に実施するグリーン購入の取り組み強化月間「グリーン購入キャンペーン」(10月1日～31日)の一環として、キャンペーン期間中に事業所内の従業員食堂等において県内産食材を利用したメニューを提供する「地産地消フェア」を実施可能な会員事業所を募集いたします。グリーン購入の取り組み項目に、ぜひ「食のグリーン購入」を加えてください。

※フェアの実施は1日限りでも結構です。

※10月以後も継続してフェアを実施していただくことが可能な事業所は、同時に滋賀県の「おいしが うれしが」キャンペーンにもご登録ください。

「地産地消フェア」
申込・問合せ先

滋賀グリーン購入ネットワーク事務局
TEL:077-510-3585 FAX:077-510-3586
E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp

「おいしが うれしが」 キャンペーン

県と食品販売事業者(事業所食堂含む)が、県産農産物やその加工品を定期的(毎月第3日曜日と前日の土曜日を中心)にクローズアップし、地産地消を推進するキャンペーン。

登録していただいた食品販売事業者は、県が定める県産農水産物の魅力をPRするツール(キャッチフレーズやロゴマーク等)が活用できます。

2008年8月より登録開始。9月よりキャンペーン開始。

申込・問合せ先

滋賀県農業経営課農産ブランド推進室
TEL:077-528-3893 FAX:077-528-4882
E-mail:gc00@pref.shiga.lg.jp

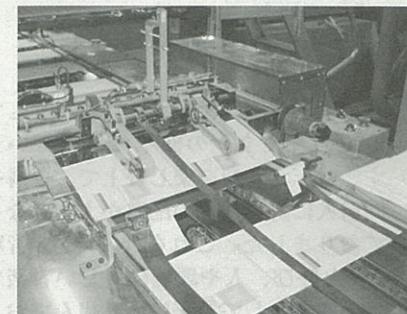
エコに学べ! ●

「環境活動」社内から地域社会へ ～ヨシを通して～

株式会社コクヨ工業滋賀 環境推進グループ 太田俊浩さん



▲ReEDENシリーズ



▲ヨシノートの生産

当社は、創業100年を越えるコクヨグループの一員として、コクヨブランドの紙製品の生産とともにコクヨ工業滋賀独自ブランド「KPS」のコピー用紙の開発・生産・販売を行っております。

コクヨグループには、創業者の信念をまとめた「経営の信条」が受け継がれており、「人の信を得る事が最も大切」という精神のもと、「商品を通じて世の中の役に立つ」という経営理念を基本に事業活動を展開しています。

■生産活動での環境の取組

当社は紙製品の生産活動の中で大量の資源をインプットしており、これらのリユース・リサイクル化を図ることが急務と考えています。例えば、インキ・糊の廃液を処理装置により固体物と浄化水に分離し、固体物は再資源として、浄化水は廃液処理工程へ循環させることで再利用しています。また、複写簿製品で使用するインキについても循環、再利用する事でロスをなくし、コスト削減とリユース化を実現させています。省エネ活動では、コンプレッサーの設備改善・運用改善に取り組み、CO₂を前年比6%削減させ、着実に効果を上げています。

一方、アウトプットされる廃棄物では、紙類だけでも20種類に分別し、紙資源のリサイクル化を進め、2003年にはゼロエミッションを達成し、継続しています。

当社は社名にも「滋賀」が入る地元企業です。滋賀という地域の中で環境保全に貢献する企業活動が出来ないか、という思いが以前よりありました。そこでたどり着いたのが、ヨシの紙製品をつくり、販売し、ヨシ活用の重要性を広く地域社会に伝えることでヨシ原の再生が進み、本来の自然の力でびわ湖保全の好循環が生まれると考えたのです。



▲出前授業風景

我々市民は、最終消費者として環境に配慮した商品及びサービスを購入することを通じて、市場を変革させていくことが出来る力を持っています。その責任を自覚し、環境配慮の商品やサービスを支援しなければなりません。

例えば「食」についても、地産地消を意識し、旬の食材を美味しい頂きながら食のマイレージを環境問題と共に家族で語り合うのも一考かと考えます。

(ニュースレター担当幹事:小林事務機(株) 和田)

編集後記

〈お問い合わせ〉
(株)コクヨ工業滋賀 環境推進グループ
TEL:0749-37-3611

新規入会会員

(2008年2月1日～6月30日)

(株)ヒロセ、(株)アズマ、(株)アビリティ、(株)高岡屋、(株)ヤサカ、ウイズ・アイティ・ジャパン(株)、(株)イケダ光音堂、ミナミ防災(株)、滋賀電業(株)、富士出版印刷(株)

現会員数:411

(2008年6月30日現在)
(企業353、行政28、非営利団体30)

リレートーク Relay Talk 「だから今、グリーン購入」

小さな一步

ロマン楽器は、ヤマハ特約店として地域の音楽文化の向上に努めています。近年、音楽を楽しむ上で、近隣や同居人に対する音の配慮が大切になって参りました。これを社内では「音環境」と呼び、人や環境に優しい音楽普及の基本として業務に取り組んでおります。ヤマハでも「サイレント」と呼ばれる消音機能を付加した楽器が販売を伸ばし、ピアノの33%、ヴァイオリ



2008年末オープン予定の新店舗

ンやチェロなどの弦楽器に至っては50%がサイレント楽器となっています。また、楽器のご購入と一緒に防音室を購入される方も増え、音環境への配慮は確実に進んでいると言えます。

さて、昨今世界は地球温暖化、環境問題に直面し、新聞やニュースでも環境という言葉を聞かない日はありません。小社も日頃より環境に優しい商品や消耗品を購入する努力をし、消耗品

に関しては67.9%がグリーン商品あります。今春、滋賀経済同友会の「家庭における地球温暖化対策」のアンケートで21項目の質問がありました。社員の回答結果を総合的にまとめてみると、公共交通機関の利用、エネルギー消費量の少ない耐久消費財の購

入、アイドリングストップの励行、環境学習への参加等に出来ている人と出来ていない人のバラツキがありました。ただし、日頃の電気のスイッチをまめに切るとか、ゴミの分別、ムダな包装を断る等、身近な生活の事は比較的出来ているようでした。

大変恥ずかしい報告をいたしましたが、今後とも全社員で会社や地域、家庭でこの大切な地球を守るためにコツコツ努力し、継続したく思います。アンケート以来、外食時に自分の「箸」を持参する社員が出たことは小さな一步です。

次回は(株)辻正さんにお願いします。

ロマン楽器(株)
大津市一里山1-10-12
TEL:077-545-5385
URL:<http://www.roman-gakki.co.jp>

会員からのお知らせコーナー

環境に優しい石から生まれた紙・Via Stone

(株)コンセ

木を伐採せず、水を汚さず、空気も汚さない紙「Via Stone」は、今世界で注目されており、すでに欧州・米国では大手企業や政府が積極的に採用しています。日本国内では、2008年度より輸入販売がスタートしました。

この度弊社は、滋賀県における代理店として販売を開始しました。ファッショニ性の高い手

下げ袋、掲示ポスターや名刺等も既に受注を開始しております。尚、この商品につきましては2月22日に放映された「ワールドビジネスサテライト」で紹介されました。皆様方が使用されている紙との環境負荷の違いについて、是非お問い合わせをお待ちしております。

<お問合せ> (株)コンセ
大津市大江8丁目110-1 TEL:077-545-3435

環境配慮型印刷システム

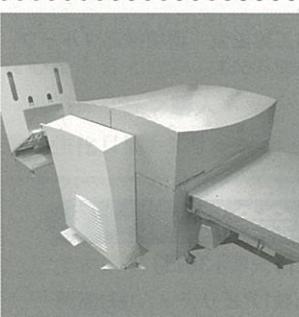
(株)シバタプロセス印刷

滋賀県の印刷会社として何が出来るのかを考えた時、コダックの「サーマルダイレクト」という無処理刷版の存在に着目しました。今まで自動現像機を使い現像処理をし、水で洗って、その後ガム(最終コーティング)処理をしていたのを、自動現像機を使わず一切廃液も出ずに印刷できる刷版を見つけました。

弊社は環境を守るために今何ができるのかを追求し、

印刷業界でのクリーンなイメージを確立し働きかけて行きます。だからといって品質を落とさないことは絶対条件とし、印刷品質をAMスクリーンからFMスクリーンへ変更することにより写真品質に近づけて参りました。また、廃液を出さず、インキ量の少ない印刷物として、環境配慮型印刷システムの確立に成功しております。

<お問合せ> (株)シバタプロセス印刷
長浜市神照町499-1 TEL:0749-63-6860



編集・発行／滋賀グリーン購入ネットワーク

〒520-0870

滋賀県大津市松本一丁目2番1号 大津合同庁舎6階

TEL:077-510-3585 FAX:077-510-3586

E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:<http://www.shigagpn.gr.jp/>

